

## ヨハネの福音書 第14章 6節

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のもとに来ることはありません。』」

政治が動き、宗教という名のもとに疑いが拡散し、こころの闇が社会を覆う。日常においては4年前から起こった感染症の拡大が報じられる。初期の頃報じられたエッセンシャル・ワーカー、医療従事者、介護福祉に携わる方たちへの賛辞も希薄化した。皆その日夜変わらずの労苦に感謝しているが声となっていない。

そのなかで言葉数を多くしているのは政治と宗教がらみの団体、そしてマスメディアである。先の集団は自らの立場を弁明するのに懸命である。後者のマスメディアは社会事象への疑問や批判を流している。虚しさが溢れ、流れゆく言葉の洪水だ。聞いていながら、ますます疑問が湧き、疑いの耳は、流れる言葉を空しい響きとする。今聞ける言葉があるだろうか。

一か所だけある。そこに耳を傾ける者は幸いである。先ずそこから聞き始めることが、他の言葉がどうなのか聞ける健全な耳を与えられる。わたしが、と語りかけてくださるイエスの前に身を置き、そこで全身を耳として、聞くべき言葉を聞く。そうすれば、他の言葉をどう聞くか示される。

2022年8月11日